あーすぷらざ かべ新聞
2023年度 第1号
通巻37号
あーすぷらざは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Sustainable Development Goals［サスティナブル ディヴェロップメント ゴールズ］＝持続可能な開発目標から学ぶ Season 3

まちづくりから見える世界

日本では、都市部と地方でそれぞれ問題を抱えています。私たちが目指す「住みやすいまち」とはいったいどのようなまち」なのでしょうか。みんなで一緒に考えてみましょう。

都市部に人口が集中するとどんな問題がありますか

2050年には世界人口の約70%が都市部で暮らしていると言われています。人口が増えすぎると住宅不足、ごみ問題、交通渋滞、治安の悪化、災害時の被害増加などの問題が起こると考えられます。

「大きなまち」と「小さなまち」それぞれの問題とは何でしょう

「大きなまち」では、建物の老朽化や空き家の増加が社会問題になっています。緑が少なく、アスファルトやコンクリートで覆われている大都市は、気温の上昇も深刻です。「小さなまち」では、人口が減って地域経済が縮小し、買い物や病院に行くためのバスの本数が減るなど、交通アクセスにも苦労しています。

安心・安全な暮らしのためにどんな工夫がありますか

- 避難場所などを知らせるハザードマップの作成
- 駅のホームドアの設置
- 病院やスーパー、役所などをまちの中心部に集め、電車やバスで移動できる範囲に住宅を配置した「コンパクトシティ」を目指す政策（2018年に小田原市、横須賀市がモデル都市に選定）

将来のまちづくりに必要な科学技術を見てみましょう

ドローンは山間部に荷物を運んだり、広い畑に空から肥料をまいたり、災害時に人々の命を守ってくれます。自動運転が実現すれば、AIがバスやタクシーを動かし、交通事故も減って渋滞もなくなるでしょう。「オンライン診療」も、近くに病院がない地域や、子育て・介護で忙しい人にとってありがたいサービスです。

まとめ

医療・交通・防災・住宅など大都市、地方都市、山間部等はそれぞれ異なる問題を抱えています。地域の事情や特性をしっかり見つめ、それぞれの問題解決に向けて、科学技術の活用や暮らしの工夫を図りながら、みんなが住みやすいまちづくりを目指す必要があります。

防災情報や困っている人への配慮など、まちには多くのサインが使われています。

津波・高潮　崖崩れ・地すべり　広域避難所　障がい者のための国際シンボルマーク　耳マーク　ほじょ犬マーク　ヘルプマーク　身体障がい者標識　聴覚障がい者標識　高齢運転者標識

このマークを知っていますか？

神奈川県立地球市民かながわプラザ
あーすぷらざ
このかべ新聞はあーすぷらざのホームページからもダウンロードできます。

第2号へつづく